

Rotary



The Hitoyoshi Rotary

人吉ロータリークラブ

通算3257回
2025年9月12日
第10回例会

よいことのために手をとりあおう

2025~2026年度 R I 会長

マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ

人吉市九日町30・清流山水花 あゆの里 ☎ 2171 例会場 事務局 清流山水花 あゆの里内 ☎ 6665 ☎ 6505



人吉ロータリークラブ
ホームページ



フェイスブックページ

[E-mail]

hitoyoshi-rc@mocha.ocn.ne.jp

2025~2026年度 人吉ロータリークラブテーマ
それぞれの輝きをひとつに

本日の例会

国歌斉唱・Rソング斉唱
会長の時間
幹事報告
出席率報告
会員5分間スピーチ
会務報告
寄付カード

会長の時間

会長 塚本哲也



皆さん、こんばんは。今年の中秋の名月は10月6日(月)、満月は翌7日(火)、一日ずれます。中秋の名月は旧暦の8月15日と決まっており、昨年は9月17日、一昨年は9月29日でした。実際には満月でないことが多いそうです。ちなみに「十五夜」とは旧暦における毎月15日の夜を指す言葉であり毎月訪れます。中秋の名月は年に一度だけです。今宵は月見酒で楽しみましょう。

さて、9月9日(火)に、ここひまわり亭で熊本第6グループの会長幹事会が開催されました。人吉中央RCからは岡本会長と多喜田幹事をはじめ11名、当クラブからは6名が出席しました。多良木RCからは東会長、今田幹事、芦北RCの才塚会長、水俣RCからは堀会長、岡崎幹事、澤村パスト会長にご参加いただきました。

議題では、第6グループのガバナー補佐輪番制の最終確認と、藤田ガバナー肝いりの、「ロータリーこども屋台選手権」(来年5月23日・大分市開催)への参加について協議されました。当日は人吉市内の多くの小学校で運動会が予定されているため、参加は難しいかと思われましたが、春木幹事のお力添えにより学童の子どもたちを中心に参加いただける方向で話が進められています。

先週、最低賃金の改定がありました。熊本県は全国最大の82円引き上げとなり、初めて時給が1,000円を超えて1,034円となりました。時給方式になった2002年度以降最大の上げ幅だそうです。

物価上昇の中の賃上げは必須ですが、何故熊本県が全国最大の上げ幅になったのか、もしかしたら人吉球磨にはほとんど関係のないTSMCが影響しているのかな?とふと思いました。最低賃金引き上げの理由として、消費者物価指数やエンゲル係数の上昇から家計負担が増していること、事業者全体としてみると賃上げ

月見例会

ひまわり亭 18時30分~



点鐘

塚本哲也 会長

歌唱

ソングリーダー 深水義富 委員

国歌 「君が代」
R S 「奉仕の理想」

司会・進行 プログラム 岡本明徳 委員長

の原資確保が可能な状況であること、多くの事業者で一定程度の価格転嫁が出来ており事業者における助成も拡大していること、が挙げられました。当店でも時給換算すると1,300円を超えるアルバイトもおり、また10時以降の深夜帯は1,550円になってしまいます。改定の発効は8月の豪雨被害を考慮して、来年の1月1日からとなるそうです。

最後に、9月7日石破総理がついに退陣する意向を表明されました。フルスペックの総裁選が実施されるとのことですが、次の総裁に誰が選ばれるのか心配です。以上で、会長の時間を終わります。

幹事報告

幹事 春木 顕

案内（回覧）

- RLI（ロータリー・リーダーシップ 研究会）パートⅡのご案内
11月8日（土）受付9:00 9:20～17:00
熊本市民会館シアーズホーム夢ホール
登録締切10/24
- 2026-2027年度地区青少年交換事業申込締切のお知らせ 締切9月末日

今後の例会について

令和7年9月19日 休会
令和7年9月26日 12:30開会

5分間スピーチ ロータリーの友紹介 結婚誕生祝い
基本的教育と識字率向上卓話（外部卓話）
令和7年10月3日12:30開会
5分間スピーチ 人吉RC奨学生ビデオメッセージ
新入会員卓話

出席率報告

副委員長 加登住 亮

現会員数	52名	出席免除会員数	1名
出席義務会員数	51名		
欠席者数	25名		
出席者数	26名		
免除会員出席数	0名		

本日の出席率
50.98%

【会員5分間スピーチ】

「織月と人吉の歴史」

堤 正博会員



今年の仲秋の名月は10月6日とのことです。本日の例会は少し早かったので月は出ていません。私が子どもの頃には、三宝に白い団子を並べ、ススキを飾り、焼酎を供えてお月見をしていました。もっとも、そのあとの一ひと杯が何よりの楽しみだったわけです。

仲秋の名月といえば満月ですが、私たちにとっては「織月」細い月のほうが親しみがあります。昔の本を開いてみると「織月」という言葉がよく出てきます。江戸から大正、昭和にかけての書物もそうです。そし

て皆さんご存じのように、「織月」は人吉城の別名でもあります。

その由来は、建久10年（1199年）、相良長頼公が築城を始めた折に見つかった月の模様を帯びた石。この石を本丸に祠（ほこら）を建て「織月石」と呼び祀ったことから、城を「織月城」と呼ぶようになったというわけです。

織月石は今、歴史資料館に収められています。もとは相良神社に置かれていましたが、移す際にレプリカを作り、本物は資料館に、複製は神社に残されています。実は私の会社にもレプリカがありまして、伝統建築科の生徒さんが造ってくれた小さなお社に納め、昔の蒸留器の隣に飾っています。興味のある方は、うちの常務に声をかけていただければ、すぐにご覧いただけますよ。

「織月」という名前は、あちこちに息づいています。人吉東小学校の校歌は「織月城頭春たけで」で始まり、人吉高校の東京同窓会は「東京織月会」。県庁に勤める人吉出身者の集まりも「織月会」と呼ばれています。これらも織月焼酎の発売前からあります。

織月石が黒くなっているのは、文久2年（1862年）の大火「寅助火事」のせいです。人吉の町全体が焼け、火は城にも及び、本丸の祠も焼け落ちました。そのとき石も黒く焦げ、そのままの姿で今も残っています。資料館に行かれる際には、ぜひご覧になってください。

さて、焼酎の話にも少し触れておきます。皆さんもご存じでしょう、焼酎という言葉が初めて文献に登場するのは永禄2年（1559年）、大口の八幡神社の落書きですね。住職が一度も焼酎を振る舞わなかつた、と大工が恨みごとを書き残したものです。日付や名前までしっかりと記されていて、現存する最古の「焼酎」の記録と言われています。

その頃、相良藩は八代を本城として南蛮貿易を行っていましたが、島津の勢いに押されて滅亡の危機に直面していました。そこへ豊臣秀吉の九州征伐があり、必死の働きかけの末、領地を安堵されました。そのおかげで藩は明治まで続くことができたわけです。

「織月」という言葉には、人吉の長い歴史と誇りが込められています。今では焼酎の名前として知られていますが、本来は城の名に由来するものです。

今日はこのあたりで。機会があれば、またお話をさせていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

点鐘 塚本哲也 会長

秋の宵を楽しむ月見会

例会後には、「秋の宵を楽しむ月見会」が行われました。秋風が心地よく吹く中、ひまわり亭の旬の味覚とともに和やかな時間を過ごしました。会員同士の親睦もいっそう深まり、楽しい秋の夜となりました。

この夜は、「一流ロータリアン」を決める“ききワイン大会”も行われ、銘柄の違いを見事に言い当てた浅野会員野間会員、小川会員、内布会員の4名が、三連続正解で“一流ロータリアン”的称号を獲得!! その集中力と味覚の冴えには、会場から「さすが！」の声が上がりました。惜しくも三問すべて外してしまった“飲む価値無しロータリアン”は.... そこはロータリーの友情で、そっと胸にしまっておきましょう(笑)

